

# 特別支援学級 国語科学習指導案

なかよし学級5・6年 5名

指導者 T1 松田 嘉美

T2 山本 美香子

## 1 単元名 なかよしの手作りショップを開こう

～ようこそ わたしたちのお店へ ちらし作りを通して～

## 2 単元について

本校の特別支援学級（なかよし学級）は、知的障がい学級11名、自閉症・情緒障がい学級5名、病弱・身体虚弱学級1名の計17名が在籍している。前期の国語科の学習で、短歌や俳句を作った。季節やテーマに沿った言葉を選ぶこと、五音や七音のきまりを守って言葉を並べることはできたが、作品の様子や気持ちをより細かく表すために言葉を言い換えたり語順を変えたりして表現を工夫することはまだ十分とはいえない。7月になかよしの野菜ショップを開いたときには、お店や商品を案内するためのちらしを作成した。ちらしには、販売の日時や場所だけでなく、おすすめの商品やその理由、購買意欲を高められるような言葉を短くまとめたキャッチコピーも載せた。最も伝えたいことを中心に、一文で書き表すことに気をつけながら、全員が一つ以上のキャッチコピーを作ることができた。そこで後期は、さらに一人一人が語感を意識し、言葉を吟味し、自分らしい言葉の表現を使って相手に伝える力をつけたいと考え、本単元「なかよしの手作りショップを開こう」を設定した。

本単元で子どもたちは、手作りのマグネットや卓上カレンダーなどの商品を、教職員に販売する活動を行う。第一次では、7月に行ったなかよしの野菜ショップを想起させ、学習の見通しをもつ。第二次からは、なかよしの手作りショップを開くための準備を、自立活動と関連を図りながら行う。商品製作後は、おすすめポイントや商品のよさについて、相手を意識して言葉を選んだり言い換えたりして自分らしい表現を探しながら、キャッチコピーをつくる。その際、一緒に製作をした同じ班の友達の思いにも意識を向けて、言葉を選ぶことができるようにしたい。ちらしを作成する際には、販売の日時や商品の紹介など、書く内容や構成について検討する。第三次では、作成したちらしをお客さん（教職員）へ直接届ける。また、オープン前には、お客さんへの言葉遣いや声の大きさを考えたり、相手の求めに応じる返答をしたりするための練習を行う。自信をもって取り組むことができるように練習を重ねた後、実際にショップを開く。これら一連の活動を通して満足感や達成感を実感させ、自己肯定感を育みたい。

## 3 単元の目標

(1) 活動目標 お客さんが買いに来たくくなるような、なかよしの手作りショップを開こう。

(2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○キャッチコピーの特徴が分かり、語感を意識して言葉を使うことができるようにする。	○伝えたいことを端的に表したり、語感やリズムを意識して言葉を使ったりしながらキャッチコピーを書いている。	知識・技能 (1) オ・カ
○目的や意図を明確にして、書き表し方を工夫したりキャッチコピーを整えたりすることができるようにする。 ○話す場面を意識して、適切な言葉遣いで話したり、必要なことを質問しながら聞いたりすることができるようにする。	○目的や意図に照らして適切な語句を選んだり、語順を入れ替えたりしながら、キャッチコピーを書いている。 ○商品の情報を相手に伝えたり、質問を聞いて答えたりしている。	思考・判断・表現 B (1) ウ・オ A (1) ウ・エ
○進んで相手や目的を意識しながら、伝えたいことを明確にして書こうとする態度を育てる。	○相手や目的を意識しながら、進んでキャッチコピーを書こうとしている。	主体的に学習に取り組む態度

#### 4 単元の構想表 「商品製作（6時間）」は自立活動で行う。

学習活動と子どもの意識（全12時間）	主な指導・支援	評価規準
<p>第一次・・・単元の学習計画を立て、学習の見通しをもつ。（1時間）</p> <div> <div>たくさんの人に買いに来てもらいたいな。</div> <div>お店を開くためにどんな準備をしておくといいかな。</div> </div>	<p>○学習計画を立てることで、これから学習に見通しをもつとともに、意欲を高めることができるようにする。</p>	<p>○なかよしショップを開くために必要な学習や準備を考え、楽しんで計画を立てている。</p> <p>（発言・態度）</p>
<p>第二次・・・なかよしの手作りショップを開くための準備をする。（本時7/9時間）</p> <p>①～⑥商品を製作する。</p>		
<p>⑦キャッチコピーを考える。</p> <div> <div>お客さんに、商品のいいところを伝えたいな。</div> <div>お店に行ってみたい、商品を見てみたいと思ってもらえる言葉を考えよう。</div> </div> <div> <div>リズムよく言えるキャッチコピーにしたいな。</div> <div>文字の間合いはないかな。別の言葉に言い換えられるところはないかな。</div> </div> <p>⑧～⑨ちらし・看板・ポップ・パッケージシールを作る。</p> <div> <div>一目見て分かるように、文字の色や大きさを工夫しよう。</div> <div>前は「なかよし果産」のシールが評判だったから・・・</div> </div>	<p>○キャッチコピーの作り方（手引き）やちらし、看板、ポップ、パッケージシールの例を示して、活動の進め方やゴールが分かるようにする。</p> <p>○見直しのポイントを示して、自分で文を整えることができるようにする。</p>	<p>○相手意識をもって文や挿絵等のデザインを考え、手引きやワークシートに書いている。</p> <p>（発言・記述）</p> <p>○友達の意見を聞いたり見直しのポイントに照らし合わせたりして、文を整えている。</p> <p>（発言・記述）</p>
<p>第三次・・・なかよしの手作りショップを開く。（2時間）</p> <p>①ショップを開くための練習を行うとともに、ちらしを届ける。</p> <div> <div>上手に案内や紹介ができるようになったよ。</div> <div>〇〇先生にお店に来てほしいな。</div> </div> <p>②ショップを開く。</p> <div> <div>丁寧な言葉で案内をすることができたよ。</div> <div>またなかよしショップを開きたいな。</div> </div>	<p>○相手に伝わるよう、声の大きさや説明する速さを確認する。</p> <p>○練習をすることで、自信をもって話すことができるようにする。</p>	<p>○相手意識をもって、声の大きさや速さに気をつけて話そうとしている。</p> <p>（発言・態度）</p>

#### 5 本時の活動

- （1）目 標 ①活動目標 お客さんが商品を買いたくなるようなキャッチコピーを考えよう。
- ②指導目標 相手意識をもって書く内容を考え、キャッチコピーをつくることができるようにする。
- ③個別の目標

子ども	目標
5年 A B	・相手意識をもって店や商品をおすすめする文を書き、一番伝えたいことを選んだり友達の意見を聞いたりして文を整え、キャッチコピーを完成させることができる。
6年 C 5年 D E	・相手意識をもって、例や友達の考えを参考にしながら店や商品をおすすめする文を書き、文を整えてキャッチコピーを完成させることができる。

(2) 展 開

学習活動	主な指導・支援	具体的評価規準
<p>1 これまでの学習をふり返り、本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お客さんが買いたくなるようなキャッチコピーにするには、どんなことを書けばいいだろう。</p> </div> <p>2 キャッチコピーをつくる。</p> <p>3 キャッチコピーを紹介し合う。</p> <p>4 本時の学習をふり返り、次時の学習への見通しをもつ。</p>	<p>1 学習計画表を提示して前時までの学習をふり返り、本時の学習問題をつかむことができるようにする。 ○前時までの活動の様子を撮影し、その画像を提示してこれまでの学習を想起することができるようにする。</p> <p>2 お客さんの興味関心を引き、来店意欲や購買意欲を高められるようなキャッチコピーを考えることができるようにする。 ○考えの参考にすることができるように、キャッチコピーの例を用意する。 ○言葉やリズム、語順を工夫してキャッチコピーを考えることができるように、手引きを用意する。 ○相手意識をもつことができるように、ちらしを渡す相手を決めておく。 ○見直しのポイントを示して、自分でキャッチコピーを整えることができるようにする。</p> <p>3 友達のキャッチコピーのよいところを見つけられるような声かけをする。</p> <p>4 学習計画表で次時の学習を確認し、見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>○相手意識をもってキャッチコピーを考え、手引きに書いている。 (発言・記述)</p> <p>○見直しのポイントに照らし合わせて、キャッチコピーを整えている。 (発言・記述)</p>

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	相手意識をもってキャッチコピーを考え、自分らしい言葉を使って文を整えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	キャッチコピーの例や手引きを用意して、自分の考えをもつきっかけにすることができるようにする。